

管内経済情勢報告

財務部



平成15年6月、財務部では管内経済情勢報告を次のとおり取りまとめました。

概況

最近の管内経済情勢をみると、個人消費は、底固く推移している。公共事業、住宅建設は前年を上回っている。また、十五年度の設備投資は前年度を下回る計画となっている。

観光は高水準で推移している。

こうした中、企業活動をみると、生産は一部に動きがみられるものの、全体として低調な動きとなっている。十五年度通期の企業収益は、増益見通しとなっている。企業の景況感は、現状は「下降」超に転じているものの、先行きは「上昇」超に転じる見通しとなっている。

なお、雇用情勢は依然として厳しい状況にあるものの、改善の動きがみられる。

このように、管内経済は、一部に厳しさは残るものの、観光は高水準で推移しており、全体として持ち直しの動きが続いている。

個人消費をみると、百貨店は引き続き大型スーパー出店の影響などから前年を下回っているものの、主要スーパーは新規出店効果の持続などもあって、主力の飲食料品が堅調なことから前年を上回っているほか、コンビニエンスストアも前年を上回っており、底固い動きとなっている。

耐久消費財では、家電製品販売はテレビ等は好調なものの、OA機器等が低調なことから前年を下回っている。自動車販売は、新車販売は小型乗用車や軽自動車上好調な動きを続けていることから、前年を上回っているほか、中古車販売は前年並みとなっている。

このように、個人消費は、底固く推移している。

観光をみると、観光入込客数は、外国客の大幅な減少により4月では前年を下

回っているものの、引き続き高水準で推移している。

主要ホテルの客室単価、客室単価は前年を下回っているものの、客室稼働率は前年を上回っている。

観光関連施設の入場者数は、高水準である入込み客や、美ら海水族館の効果から前年を上回っている。

このように観光は高水準で推移している。

住宅建設を新設住宅着工戸数でみると、持家、分譲住宅で前年を下回っているものの、貸家で前年を大幅に上回っていることから、全体では前年を上回っている。新設住宅の着工床面積も前年を上回っている。

資金別の着工戸数では、民間資金、公的資金ともに前年を上回っている。

設備投資をみると、十五年度は、製造業で前年度を上回っているものの、非製造業で前年度を下回っていることから、全産業では前年度を下回る計画となっている。

公共事業を公共工事前払保証請負額でみると、市町村で前年を下回っているものの、国、県等で前年を上回っていることから、全体でも前年を上回っている。

生産活動をみると、建設資材関連では、アルミ型材、生コン、セメント、棒鋼ともに前年を下回っている。

また、食料品では、発泡酒、食肉加工品、泡盛は前年を上回っているものの、ビール、パン・めん類が前年を下回っている。

このように、生産活動は一部に動きがみられるものの、全体としては低調な動きとなっている。

企業収益（石油、電気・ガスを除く）をみると、十五年度上期は、製造業、非製造業とも「増益」とみていることから、

全産業でも「増益」見込みとなっている。

十五年度下期は、非製造業でわずかながら「減益」とみているものの、製造業で大幅な「増益」とみていることから、全産業では「増益」見通しとなっている。

十五年度通期は、製造業で大幅な「増益」とみえており、非製造業でも「増益」とみていることから、全産業でも「増益」見通しとなっている。

企業の景況感をみると、現状（十五年四～六ヶ月）では、製造業で「下降」超幅が縮小しているものの、ウエイトの高い非製造業で「下降」超に転じていることから、全産業では「下降」超に転じている。

なお、先行きは、製造業で「下降」超幅が拡大するものの、ウエイトの高い非製造業で「上昇」超に転じることから、全産業では「上昇」超に転じる見通しとなっている。

企業倒産をみると、件数、負債金額とも前年を上回っている。

雇用情勢をみると、完全失業率は依然として高水準で推移している。有効求人倍率はやや改善の動きがみられる。

新規求人数、県外からの受求人数は増加を続けている。

また、就職件数も増加を続けている。このように、雇用情勢は依然として厳しい状況にあるものの、改善の動きがみられる。

消費者物価をみると、交通・通信や保健医療などで動きがみられるものの、被服及び履物など多くの費目で下落傾向にあることから、全体でも引き続き弱含んでいる。

金融面をみると、設備資金、運転資金とも前年を下回っている。
農産品を野菜・果実の出荷量、出荷額

表-1 個人消費…底固く推移している

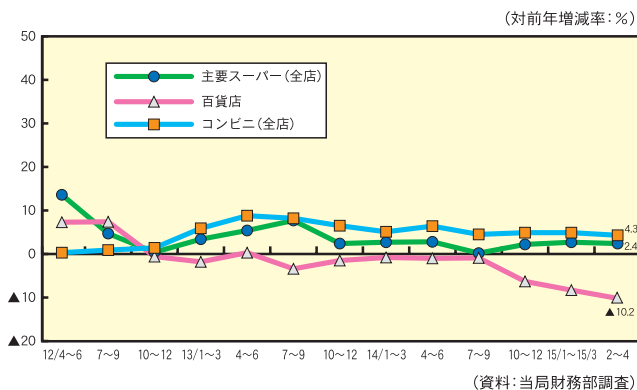
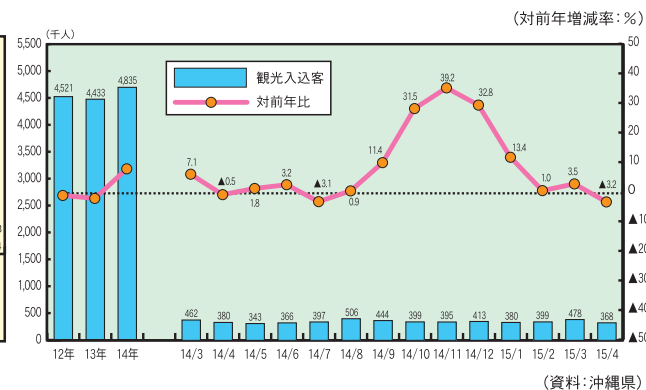


表-2 観光…高水準で推移している



でみると、県内、県外向けとも出荷額は前年を上回っているものの、出荷量は前年を下回っている。